

『イエス様の優先順位』

'20/08/02

聖書箇所: マルコの福音書 1 章 21-45 節 (新約 p.65-)

私たちは皆、様々な優先順位を決めて、毎日を生きております。そこで、私たちが知るべきことは、じゃあ、あのイエス様は、一体どのような優先順位をもって行動されていたのか？ということでありませぬ。…感謝なことに、今日、私たちが学ぼうとしている聖書のみことばには、イエス様が持っておられた優先順位というべきものを、比較的、はっきりとした形で見ることができます。

命題: イエス様が優先されたものを見ていきましょう！

願わくは、イエス様の優先順位を知ることで、イエス様がどういったお方だったのか？ということを知ることができ、できれば、私たちがまた、イエス様と同じような優先順位をもって、毎日の生活を送っていけるようになっていけることを願います。

皆さん…。最後の晩餐の時、イエス様は、こんなことを弟子たちにおっしゃいました。ヨハネ 13:13-17、
『13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。 14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。 15 わたしがあなたがたに示したとおりに、あなたがたもするよう、わたしはあなたがたに模範を示したのです。 16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。 17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、“それを行うときに”、あなたがたは祝福されるのです。』

皆さん、聞いてくださいました？…イエス様は、私たちが神の模範を知っているかどうかではなくて…、それを行なう時に、祝福されるのだ！ということをお教えました。どうか、今日、私たちが学んでいくみことばが、皆さんの祝福へ繋がってきますように…。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、マルコ 1:21-45 をお開きください。

I・行ないよりも、動機 ! (21-28 節)

まずは、マルコ 1:21-28 の部分だけを、皆さんと一緒に見ていきたいと思います。このみことばは、ついで先週も学んだところですが、先週とは、少し違った視点で学んでいきたいと思います。ここ 21-28 節には、あのイエス様が、行ないよりも、“動機”の方を優先された！ということが分かります。そこには、このように記されてあります。

- 21 それから、一行はカペナウムに入った。そしてすぐに、イエスは安息日に会堂に入って教えられた。
- 22 人々は、その教えに驚いた。それはイエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。
- 23 すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、叫んで言った。
- 24 「ナザレのイエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちに滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」
- 25 イエスは彼をしかって、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。
- 26 すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。
- 27 人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。」
- 28 こうして、イエスの評判は、すぐに、ガリラヤ全地の至る所に広まった。

ここで、どのようなことが行なわれたのか、皆さんはお分りになってくださると思います。『カペナウム』(写真の紹介)という町の会堂に、何と、汚れた霊につかれた人がいて、イエス様に、こんなことを言います。24 節、『ナザレのイエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちに滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。』って…。

⇒先週もチラッと言いましたが、ここで悪霊が言い放った内容は、決して、大きく外れたものではありません。…と言いますのも、まず、イエス様は、確かに、『ナザレの』出身でした。そうして、イエス様は、万物の造り主、真の神であると同時に、『人(間)』でもあられました。それと、確かに、イエス様は、悪霊たちを滅ぼされるために、地上にいられました…。だから、Iヨハネ 3:8 にも、『…神の子(=イエス・キリスト)が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。』とある通りです。その次に悪霊が言った、『神の聖者』という表現も、あまり聞き慣れませんが…、でも、イエスの弟子であったペテロは、ヨハネ 6:69 で、イエス様に対して、『私たちは、あなたが神の聖者(←原語でも、当該箇所と全く同じ言い回し)であることを信じ、また知っています。』と告白しています。

つまり、この時に悪霊が言った内容は、決して、間違っていないのです！…しかし、それに対して、イエス様は、25 節にあるように、その霊のことを叱って、『黙れ！この人から出て行け！』と言われました。…と言いますのは、この時の悪霊は、決して、イエス様に何らかの好意を持っていたとか…、イエス様のために何かしたかったわけでは無かったからです。

先週私たちが学んだように、悪霊たちと言いますのは、神様に造られていながら、その神様に逆らうことを自ら選択した者たちです。…彼らのトップはサタンであって、彼らは皆、何とかして、神の働きをジャマしようとしているのです。そんな彼らだからこそ、イエス様は、悪霊たちが物を言うのをお許しにならなかったのです！その内容が正しいか間違っているかなんて、二の次です。

そのことから、私たちは何を学ぶべきでしょうか？…天の神様は、私たちが話す内容だけに興味を持っておられるわけではありません。ひょっとしたら、天の神様は、私たちが何を話し…、どんな行動を選択するか？よりも、私たちが、どのような思いで、何を目的に、様々な選択をしているのか？…そういったことを、天の神様は御覧になっておられるのではないのでしょうか？

Iサムエル 16:7 にこう教えられてあることを、皆さんはよくご存じでしょう、『…人はうわべを見るが、【主】は心を見る。』×2 って…。いかがでしょうか？ひょっとしたら、私たちは、様々な発言や表面的な行動にばかり、関心が行ってしまっていないでしょうか？私たちが重んじるべきは、私はい一体何を目的に…、また、どのような思いで、それをなしたのか？といったことではないのでしょうか？…もしも、私たちが、そういったことを忘れてしまうと、神様からの祝福を得ることは難しいのではないのでしょうか？…どうか、皆さんには、そういったことを忘れずにいていただきたいと思ひます。

II・肉体の休息よりも、祈り ! (29-35 節)

次に私たちが注目したいポイントは、“祈り”です。よく言われることですが…、イエス様が、要所要所で、よく祈っておられたということは、聖書をしっかりと学ぶと伝わってきます。次のみことばからは、イエス様の“祈り”に関する、優先度(=重要度)が、皆さんにも分かっていたらと思います。…イエス様は、ご自分の体を休ませることよりも、祈ること…、つまり、神様との時間を優先されたのです。どうぞ、今日のみことばの内、29-35 節をご覧ください。そこには、こうあります。

- 29 イエスは会堂を出るとすぐに、ヤコブとヨハネを連れて、シモンとアンデレの家に入られた。
- 30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床に横たわっていたので、人々はさっそく彼女のことをイエスに知らせた。
- 31 イエスは、彼女に近寄り、その手を取って起こされた。すると熱がひき、彼女は彼らをもてなした。

- 32 夕方になった。日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた人をみな、イエスのもとに連れて来た。
33 こうして町中の者が戸口に集まって来た。
34 イエスは、さまざまの病気にかかっている多くの人をいやし、また多くの悪霊を追い出された。そして悪霊どもがものを言うのをお許しにならなかった。彼らがイエスをよく知っていたからである。
35 さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。

まず、ここで、しっかりと抑えておきたいことは、「聖書的な癒し、(あるいは、)イエス様がなされた癒し」についてです。…と言いますのも、どうぞ、ここ 30-31 節に注目してみてください。ここで、『熱病』と訳されている言葉(πυρέσσω)は、非常な高熱が出ていることを表わす言葉で、それ以外に、詳しいことは分かりません。

しかし、ここで、『シモン(・ペテロ)のしゅうとめ』(30 節)が、イエス様によって癒されたわけですが、その癒しとは、非常にダイレクトでしょ？ 言い換えれば、「アッ！」という間じゃないですか！ 彼女は、イエス様に癒された直後に、もう起き上がって、イエス様と弟子たちを『もてなした』(31 節)のです。今日、時々宗教がらみで話題になっている、癒しのほとんどは、こういったダイレクトなものではありません。ある程度の時間が必要なのです。…私たちも、主にある兄弟姉妹や、私たちと親しい方などが病気になった時に、神様に癒しを求めて、神様に祈ります。そういった時、主はみこころの内に、そういった人々を癒してくださいますが、基本的には、それと同じです。違うのは、私たちが祈る時に、手を置くか置かないか…、まあ、それくらいは私もするかも知れませんが…、要は、奇蹟的な「手」であるとか…、特別に“癒しの賜物”をもった方の祈りでないと意味が無いとするか否か、ということです。

現代では「癒された！」と言っても、その実は、医学的な治療や静養が必要なのです。しかし、今日のみことばが教える、イエス様の癒しは…、あるいは、「聖書に出てくる癒し」は、そういった治療や時間は一切必要ありませんでした！ 癒されたら、もう、その瞬間に、完全に回復してますでしょ？ …そういったところが、現代、怪しげなところでなされている癒しとの違いです。…どうか、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんには、聖書的な…、一瞬で起こる癒しと、現代の怪しげな宗教や詐欺まがいの癒しなどと区別ができるようになってほしいと思います。

さて、この時の状況について、今一度、確認をさせていただきます。29 節に、『イエスは会堂を出るとすぐに…』とありますように、先程の悪霊の話も、シモン・ペテロの『しゅうとめが熱病』から癒されたことも、同じ安息日に起こりました。当然、大勢の人々の目が、イエス様に向かいます。だから、大勢の人が、癒しを求めてやって来たのです。32 節で、『夕方になった。日が沈むと…』とあるのは、この夕方、安息日が終わったからです。当時は、夕方…、つまり、日が沈むと、新しい1日が始まったのです。この当時、律法で安息日には、『どんな仕事もしてはならない！』(出エジプト記 20:10)と命じられてきたので、当時の人たちは、その安息日が終わった夕方から、どつと、イエス様のところへと詰め掛けてきたわけです。この 32 節には、『人々は病人や悪霊につかれた人を“みな”、イエスのもとに連れて来た…』とあります。

一体、どれほどの人数がイエス様のところへやって来て、癒されたのでしょうか？ …ここ 33 節には、『こうして“町中の者”が戸口に集まって来た。』と書かれてあります。彼らは皆、来る人来る人が、イエス様によって癒されていくわけです。…一体、この夜、イエス様は何時頃にお休みになされたのでしょうか？ また、それだけではありません。皆さんも経験があるでしょうけれども、大勢の人々が集まって、その病が癒されて、狂喜乱舞している姿って、その当人は、感激で興奮しているでしょうけれども、その周りにいると疲れませんか？ …この時、イエス様は、そんな忙しくも、あわただしい1日を過ごされたのです…。

さあ、そこで、注目したいのは、その翌朝です。35 節をご覧くださいますと、その翌朝、イエス様は、『朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた…』とあります。…イエス様は、

ゆっくりと落ち着いて、父なる神様へ祈りを捧げるために、寂しい所へ出て行かれたのです。…今日のみことばの 37 節をご覧くださいますと、その朝には早くから、また、たくさんの者たちが癒しを求めて、イエス様のところへとやって来たことが分かります。イエス様は、翌朝、そうなることを分かっておられなかったのでしょうか？ …いいえ、当然、イエス様は分かっておられました。分かっておられたから、イエス様は、“朝早く、まだ暗い内から”、その神様へ祈りを捧げるために、寂しい所へと行かれたのです。

このように、あのイエス様でさえ、祈り…、つまり、父なる神様との交わりを優先されたというのは、私たちにとても貴重な“模範”となります。イエス様は、マタイ 26:41 で、『誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。』ということを弟子たちに教えてくださいました。よく私たちは、「忙しいから、祈れない…。時間が無いから、聖書を読めない…」みたいなことを言いますが、果たして、それは、正当な理由でしょうか？ …それとも、私たちの単なる言い訳でしょうか？

もちろん、誰にだって休息は必要です。イエス様だって、何も徹夜をしておられたわけではありません。そこには、ある程度のバランスが必要です。しかし、私たちは、あまりにも、祈りというか、神様からの助けというものを軽視してしまう傾向があるのではないのでしょうか？ 私にも…、もちろん、皆さんにも祈りが必要です！ 神様の助けが必要です！ 一体、誰が、神様からの助け無しに、誘惑に陥ることなく、毎日の生活を送っていけるでしょうか？ …あのイエス様だって、事あるごとに、祈りを優先されたのです。…果たして、私たちは、祈りと言うか、神様からの助けや、あるいは、聖書のみことばからのアドバイスに対して、真摯に耳を傾けようとしているのでしょうか？ …もしも、私たちが、この神様からの助けを真剣に求めることなく、毎日の生活を送っていくなら…、その結果は、大変なものになっていくのではないのでしょうか？

Ⅲ・肉体の癒しよりも、たましいの救い！ (36-39 節)

3番目のポイント。私たち人間は、目の前の物質的なものばかりに目が行ってしまう傾向があるように思います。世の中の、多くの人はもちろんですが、私たちクリスチャンも、霊的な事柄よりも、肉体的なもの…、あるいは、物質的なものに、より多くの関心(=優先順位)を持ってしまっていないでしょうか？

しかし、イエス様は、そういった肉体の癒しよりも、“たましいの救い”の方を優先された！ ということを、私たちは、しっかりと意識しておくべきでしょう…。今日のみことばの 36-39 節をご覧ください。

- 36 シモンとその仲間、イエスを追って来て、
37 彼を見つけ、「みんながあなたを捜しております」と言った。
38 イエスは彼らに言われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。」
39 こうしてイエスは、ガリラヤ全地にわたり、その会堂に行き、福音を告げ知らせ、悪霊を追い出された。

この時の状況を、皆さんはよく分かってくださいますよね？ …この時、シモンとその仲間たちは、イエス様を探し当てて、きっと興奮しながら…、「イエス様！ こんなところにおられたのですか？ さあ、どうぞ、もう1度、お帰りください！ 大勢の者たちがイエス様を探しておられますよ！」と言うわけです。

しかし、それに対するイエス様のお答えは、きっとシモンたちのことを驚かせたことでしょう。…と言いますのは、せっかく、大勢の者たちが集まってきて、イエス様のことを探しているというのに、そのイエス様は、「さあ、カペナウムとは違う、別の村へ行こう！」と言うのですから…。…そうでしょ？

でも、イエス様の、この行動は実は、全く驚くに値しません…。と言いますのは、皆さん、覚えてくださっていますでしょ？ …この時に、イエス様が発せられていたメッセージは何でした？ ⇒「悔い改めて…、何を信じなさい！」でした？ …「福音」でしょ！ …福音こそ、イエス様が1番に伝えたかったメッセージであったのです！ だから、どうぞ、38 節の後半部分に注目してみてください。そこで、イエス様は、こうおっしゃ

ておられます、『さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。』って…。ここで、イエスは、はっきりと、自分は、別の村に行って、そこにも福音を伝えたい！自分は、そのために出てきたのだ！ということをおっしゃっておられます。

じゃあ、皆さん、考えてくださいますか？…一体なぜ、イエスは、元におられたカペナウムの町ではなくて…、別の村へ行こうとされたのでしょうか？⇒それは、カペナウムの町では、もう既に、イエスの癒し…、イエスの奇蹟ばかりが目立っていて、大勢の者たちの関心が、福音の方へ向かないということ、イエス様がご存じであったから、です。福音こそ、イエス様が1番に伝えたくったメッセージなのです。

現代も、こういった傾向というものはお変わりありません。多くの人たちは、神様の話を聞いて、真理を知ることよりも…、すぐ目先の癒しであったり、問題の解決であったり、お金や裕福を追い求める傾向にあります。しかし、そんな健康も、出世や贅沢も、一時的なものです。そうでしょ？…しかし、イエスが伝えようとしていた福音のメッセージは、私たちに真理を教え…、その真理は、私たちに自由にして、永遠の天国…、祝福へと私たちのことを導いていってくれます。だから、私たちに、健康よりも…、財産よりも、何よりも福音が必要なのです！…どうか、皆さんには、この福音の重要性を、しっかりと理解して欲しいと思います。

IV・感情よりも、聖書の みことば ! (40-45 節)

最後、4つ目に見ていきたいのは、イエスが、感情よりも、聖書の“みことば”の方を重んじられた！ということです。確かに、感情というもの、イエス様や天の父なる神様も御持ちで…、決して悪いものではありません。しかし、私たちが注意すべきことは、自分自身の感情というものに必要以上の信頼を置いてしまって、自分の感情を基準にしてしまうことではないでしょうか？私たちは、感情的なものよりも、聖書のみことばを…、言い換えれば、神のみことばの方を優先すべきです。今日のみことばの 40-45 節には、このように記されています。

40 さて、ツアラアトに冒された人がイエスのみもとにお願いに来て、ひざまずいて言った。「お心一つで、私をきよくしていただけます。」

41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。「わたしの心だ。きよくなれ。」

42 すると、すぐに、そのツアラアトが消えて、その人はきよくなった。

43 そこでイエスは、彼をきびしく戒めて、すぐに彼を立ち去らせた。

44 そのとき彼にこう言われた。「気をつけて、だれにも何も言わないようにしなさい。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々へのあかしのために、モーセが命じた物をもって、あなたのおきよめの供え物をしなさい。」

45 ところが、彼は出て行って、この出来事をふれ回り、言い広め始めた。そのためイエスは表立って町の中に入ることができず、町はずれの寂しい所におられた。しかし、人々は、あらゆる所からイエスのもとに来て来た。

恐らく、皆さんは、この当時、ツアラアト(≡重い皮膚病)に侵された者がどのような扱いを受けていたのか、ご存じでしょう。映画、「ベン・ハー」で、主人公のお母さんがそうであったように、彼らは、感染を防ぐために…、家族から引き離され、住み慣れた家からも離され…、村はずれの、らい病人の群れに住まなければならぬ状態でした。当然、仕事をすることも、ほとんど叶わなかったでしょう…。そこには数々の細かい規定があって、簡単に健康な人に近づかせできませんでした…。ですから、ルカ 17 章で、10 人のツアラアトに侵された者たちの話がありますが、彼らが、『遠く離れた所に立って、声を張り上げて、「イエスマ、先生。どうぞあわれんでください。』と言った。』とあるのは、そういった理由もあるのです。

では、今読んだ 42 節に注目してみてください。ここで起こった奇蹟も、同様です。やはり、イエス様が癒してくださいと、すぐに、ツアラアト(≡重い皮膚病)が癒されたのです。そんな病気が癒されたというのは、非常な喜びであったのは想像するに難くありません。しかし、この当時、ツアラアトが癒されたら、まず、すべきことがありました。それは、祭司のところに行って、本当に、そのツアラアトが癒されたかどうか、何かの間違いなどではないのか？そういったことを祭司に確認してもらって、その後、神様に捧げ物をするという順序でした。そういったことが、レビ記 14 章などに書かれています。

そういったみことばを無視して、感情に突っ走ってしまうと…、私たちは、正しく霊的な (& 冷静な) 判断というものを見失ってしまいます。あるいは、正しい証しも…、神様からの祝福も無くしてしまうかも知れません。実際、イエス様は、今見たように…、癒してではなく、人々に救いの話をしなかったのに、それができなくなってしまったでしょ？⇒ここ 45 節に、『そのためイエスは表立って町の中に入ることができず、町はずれの寂しい所におられた。』とある通りです。

ある時に、こんなことがありました…。その方は、明らかに、聖書のみことばに“従っておられません”でした。しかし、こうおっしゃるのです、「でも、私、今、すごく幸せですよ。毎日、平安で、感謝に満ち溢れています。これは、神様の与えてくださるものでしょ！」って…。果たして、本当に、そうなのでしょう？

確かに、喜びや平安などといったものを、神様は与えてくださいます。しかし、そういったものは、神様からだけではなく…、私たちの肉から…、つまり、私たちの願いが叶うことや、私たちの欲望が満たされることでも、起こってきます。…じゃなかったら、クリスチャン以外は、何の喜びも平安も満足もないということになってしまいますが、実際はそうじゃないでしょ？

イエス様が、十字架にかかれる直前の出来事を、皆さんはよくご存じです。イエス様は、その時に、どのような祈りを捧げられたのでしょうか？⇒マタイ 26:37-39、『37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。 38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしをいっしょに目をさましていなさい。」 39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみことばのように、なさってください。』

神であられるイエス様でさえ、その感情と神様のみことばが違っていることがありました…。しかし、イエス様は、自分自身の感情に従われたのではなく…、言い換えれば、自分のやりたいことを優先されたのではなく、父なる神様のみことば…、旧約聖書の預言に従って、自ら、十字架に向かって行かれたのです。…だって、そうしないと、私や皆さんに、罪の赦しが無かったからです！イエス様が、そうしてくだらなかつたら、誰一人、救われることがなかったのです！イエス様も、自らの感情ではなく、神様のみことばに…、みことばに従っていかれたのです。それは、私たちへの模範でもあります。

< 励ましの言葉 >

現代は、「自分に嘘をつかなくて良いよー」などと言って、私たちの感情を優先させる傾向にあります。悲しいのは、神様のみことばを1番に優先すべき教会でも、そのようにカウンセリングされることがあることです。しかし、私たちの感情は、時に間違いを犯します、「これは、神のみことばに違いない！」って…。しかし、神様は…、聖書のみことばには間違いがありません。あのイエス様でさえ、サタンの誘惑に対して、みことばでもって、勝利なさいました。だから、私たちに、しっかりと聖書の学びや一緒に祈り合ってくれる友が必要なのです！また、祈りが必要なのです。どうか、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんには、ますます、神様に喜ばれる優先順位を実践していただきたいと思います。

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。イエス様は、何よりも、あなたの救いを願って～